

PROGRAM

ジョルジュ・ビゼー作曲『カルメン』より

煙の歌（合唱）

ハバネラ（カルメン）

セギディーリヤ（カルメン・ホセ）

ジプシーソング（フラスキータ・メルセデス・カルメン）

闘牛士の歌（エスカミーリョ）

休憩（10分間）

花の歌（ホセ）

カルタの歌（フラスキータ・メルセデス・カルメン）

もう恐れはしない（ミカエラ）

水売りの歌（合唱）

来たぞ、来たぞ！（合唱）

カルメン／熊坂千恵　ホセ／真弓智也　エスカミーリョ／山田浩史　ミカエラ／児玉安代
フラスキータ／山田有希子　メルセデス／安藤絵里　リリヤス・パスティア／池田可奈子
合唱／アンサンブル・バッカナーレ合唱団　ピアノ／坂本知加子　指揮・演出／升水弘之

今年3月21日（水・祝日）に、府中の森芸術劇場ふるさとホールである声楽研究会公演歌劇『カルメン』に参加します。もちろん今度は全曲です。お楽しみに。それからアンサンブル・バッカナーレでは、合唱団員を常に募集しています。歌う事が好きな方、どうか私たちの公演を手伝って下さい。

問合せ先／アンサンブル・バッカナーレ

:042 - 576 - 6581（江田）

:03 - 3751 - 1818（升水）

曲目解説

『煙の歌』

ここはセヴィリヤの街。昼休みになると、広場に面した煙草工場から女工たちが出てくるので、それを目当てに男たちが集まってきました。煙草をくゆらせながら女たちが歌います。「立ち昇る煙草の煙は、やがて空に散っていく。男たちの甘い恋の囁きも煙、虚しく空に散っていく...」賢明に口説く男たちの不実を皮肉った歌です。その歌の通り、カルメンが登場すると男たちはもう女工たちに目もくれず、必死にカルメンに愛をアピールしますが、カルメンはまるで相手にしません。

『ハバネラ』

「恋は自由に飛びまわる野の小鳥、誰の言う事も聞きはしない。...もしもあたしに好かれたらご用心」カルメンが自分の恋愛観を歌うアリア。ちなみにハバネラはスペイン音楽ではなく“ハバナ風の”カリビアン。でもビゼーは、あえてスペイン的なものとしてハバネラのリズムでこのアリアを作ったのですね。歌の後でカルメンは、自分に背を向けて銃の手入れをしているホセに花を投げつけます。そこから運命が回り始めるのです。

『セギディーリヤ』

煙草工場で他の女工を負傷させた為にカルメンは捕らえます。収監手続きの間、彼女を見張っているように命令されたホセ。そんな彼に、カルメンは自分を逃がしてくれたらあんたの恋人になろうと誘惑します。「セヴィリヤの街外れ、城壁の近くのリリヤス・パスティアの酒場。そこで一緒に踊り、マンザニラ酒を飲もう...」そしてホセは人生を踏み外すのです。

『ジプシーソング』

2幕冒頭、リリヤス・パスティアの酒場でフラスキータ、メルセデス、カルメンの3人が歌います。「...ボヘミアンの腕は激しく楽器を奏で、狂騒の中でジプシー女は妖艶になる...歌のリズムに沸き立ち、たけり、熱くなり、酔い痴れて忘我の大渦へ身を投げる！」

『闘牛士の歌』

闘牛士エスカミーリョが、闘牛の様子を迫力いっぱいに歌います。同時に、このシーンがカルメンとエスカミーリョの出会いの場となっています。